

令和7年度第2回高知県産業振興計画フォローアップ委員会観光部会 議事概要

日時：令和8年1月26日（月） 13:30～15:30

場所：高知サンライズホテル 2階 「向陽の間」

出席：部会員10人中、8名が出席

議事：（1） 第5期産業振興計画＜観光分野＞の取り組み状況等について
・観光分野の令和8年度の取り組みの強化のポイント

議事（1）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）
議事については、すべて了承された。

（1） 第5期産業振興計画＜観光分野＞の取り組み状況等について
・観光分野の令和8年度の取り組みの強化のポイント

（三井部会員）

- ・クルーズ船の寄港日は平日が多いが、特に水曜日は商店街の店舗が休日のところが多く、クルーズ船のお客さんが不便に感じているようだ。商店街が水曜日に一斉に休むのはやめてもらいたい。
- ・はりまや橋の欄干が黒色になっているが、これを朱色で塗り直せば見栄えが良くなるのではないか。

（国際観光課谷内課長）

- ・中心商店街や高知市などからなる「クルーズ船市街地受入部会」の中で、水曜日の定休日についても議論しているところ。それぞれの事情があり、すぐに対応することが難しいため、クルーズ船には事前に情報提供をするようにしている。来年度のクルーズ客船についても、現時点で100隻以上の予約が入っていると聞いている。

（高知県観光振興スポーツ部小西部長）

- ・はりまや橋の色については、何かしらの理由があつてのことだと思われるが、詳細な理由は持ち合わせていない。はりまや橋については、県が管理しているものではないが、色を変えとなると関係各所への相談が必要となると思われる。詳細は調査してみるので、少しお時間をいただきたい。

（森部会員）

- ・連続テレビ小説「あんぱん」の効果や、数年以内のホテル増加により、観光客入込数は増加するのではないかと思われるが、受入可能な観光客数の最大値はどの程度を想定しているか教えていただきたい。
- ・国際便については、空港に新ターミナルができることもあり、チャーター便の運行回数110往復という目標も変更になるのではないかと思われるが、現状の週2回の台湾便は何往復

となっていて、新ターミナルができることで受入可能な観光客数の最大値ほどの程度を想定しているか教えていただきたい。

- ・観光の施策としては様々なことを行っているが、これらの他に県民全体がみるような大きな夢のようなものがないかと考えている。例えば「スペースポート構想」であれば、ロケットの発着を見ること自体が観光の目的となる。ロケット産業を誘致するというのもあるが、種子島や和歌山では、ロケットの打ち上げを見に行くだけでも観光客が増えるという話も聞いている。高知県の扇状の地形を活かし、室戸から足摺までの海岸全体が観客席のようにすることもできるという話もある。
- ・県民体育館の関係で、これまでは1,000人程度しか収容できなかった会場が、2,000～3,000人収容できるようになるのであれば、これまではMICEなどで全国大会を誘致していたものを、今後は世界大会を誘致できるようにしてはどうか。先日、大阪・関西万博の大屋根リングの木材の里帰りが実現したところである。また、日本の森林比率は世界でも上位であり、高知県は全国の中でも森林率が第1位である。世界林業会議というものが6年ごとに開催されており、直近は2022年にソウルで開催されているが、日本では開催されることがない。この会議を誘致することができれば、日本初の世界大会を高知で開催することになる。スペースポートと併せて、世界林業会議についても、高知県観光の目玉として取り組んでいてはどうか。

(高知県観光振興スポーツ部小西部長)

- ・観光の目玉事業ということであるが、これまでのどっぷり高知旅キャンペーンの中で発信してきた「極上の田舎」というフレーズどおり、観光客に高知の県民性、大自然や伝統文化にしっかりと触れていただくということをまずは目指していきたい。その次の展開として、スペースポート構想や世界林業会議などについても視野に入れながら、取り組んでいくべきと考えている。県民体育館のアリーナについては、現在、基本計画を立てているところであるが、MICEも受け入れられるような施設にすることを考えている。今後大阪府ではIRの建設が進んでいくが、IRと連携したような形も検討できるのではないかという意見もある。大阪観光局にもノウハウをいただき、高知の既存の文化施設や新たなアリーナなどを使いながら、「大阪+高知」という形で国際会議を誘致することも視野に、来年度は取り組んでいきたい。

(国際観光課谷内課長)

- ・クルーズ客船の受入可能な観光客数の最大値について、客船の誘致自体は土木部が行っており正確には把握していないが、現在は2箇所あるバース（貨物の積卸しを行うための専用スペース）にターミナルを設置しており、2箇所同時に客船が停泊することもある。来年度においては、2箇所同時にバースを利用する予約が10回ほどあるが、客船以外のバースの利用もあるため、1つのバースを365日利用するプラスアルファが最大値となるのではないか。
- ・国際チャーター便の運行回数については、現在の週2回年間52週の台湾チャーター便に加え、韓国や香港からの新設便を目指した計画としていたもの。新ターミナルによる受入可

能な観光客数の最大値は、空港のハンドリングスタッフの体制や国際便の受入可能時間帯の関係もあり、現時点ではタイガーエアが飛んでいない同じ時間帯の別の曜日であれば受入可能であると聞いている。

(高知県観光振興スポーツ部小西部長)

- ・クルーズについては、物理的な面では谷内課長の説明のとおりであるが、バスの手配の関係などもあり、土木部の意見も聞いたところによると、現実的には365日というのは難しく、今年100隻プラスアルファというのが現実的なところになるのではないかと聞いている。

(赤池部会員)

- ・インバウンド向けの商品開発や付加価値の向上に取り組むとのことであるが、インバウンドが何を求めており、日本人と何が違うのかということを示すことが必要ではないか。集落活動センターなどでこれからの地域の観光の担い手となるような人たちに情報提供をしていただけると、自分たちの地域の素晴らしさを再認識するためのきっかけとなるのではないかと聞いている。
- ・2019年頃は、高知県の外国人観光客のうち台湾からの観光客が全国で最も少なかったことを記憶しているが、ここ数年で急増したことは嬉しい。一方で、台湾の教育関係者と話をしたときには、高知からこれだけ台湾に行っているという話ができない。高知から台湾に行くということを観光戦略の中にしっかりと組み込んでいただきたい。相互の交流があって初めて国際線の維持発展に繋がるのではないかと思うので、高知県民が気軽に海外に行けるようになり、そこで得た経験や学びを高知の発展のために活かすようになればよい。

(高知県観光振興スポーツ部小西部長)

- ・日本人観光客とインバウンドには、端的に言うと言葉の違いがある。中山間地域の方とふれあう中で、言葉の壁が影響してくることになる。現在は地域通訳案内士の育成も行っており、地元の地域通訳案内士と海外の旅行会社をマッチングし、通訳付きの商品を販売していただくという形で付加価値を高めることとしている。またしっかりとしたビッグデータなどを使いながら、地域の皆様にも傾向などが見てわかるようなところを今後目指していく。
- ・台湾との交流については、例えばよさこい祭りや野球の交流などは今後も進めていく余地があると考えている。また、アウトバウンドは、航路の安定という面からも必須の条件となってくるため、アウトバウンド施策についても、今後ご意見をいただきながら進めていきたい。

(赤池部会員)

- ・台湾の方は「職人」という言葉に敏感である。日本人の職人魂はとても魅力的なので、手すき和紙などの物そのものの魅力だけでなく、それを教えてくれる人（職人）に会えるということも台湾人にとっては魅力的である。

(鎌倉部会員)

- ・現在、文化財団や牧野植物園記念財団などについては、自律性向上団体として新たな取り組みを求められている状況。昨年末に開催された県立施設運営活性化懇談会では、うちの事情により本来のAグループだけでなくBグループにも参加した。そのBグループの委員の中に日本女子体育大学の教授という方がいらっしゃり、その方の専門分野はスタジアムなどの建築物に関するものということだったのであるが、高知は近代的な建築物が多く、例えば坂本龍馬記念館は近代建築物の代表的なものとして通用するし、その他、牧野植物園やアンパンマンミュージアムなど、近代建築として見た場合にアーキテクチャリズムの名建築が多いとも言っていた。高知県観光はこれまで主に歴史や食などに取り組んできており、建築物に着目してきたことはあまりなかったのではないかと。例えば構原の隈研吾さんの建物群、横倉山自然の森博物館（安藤忠雄設計）、土佐清水市の海のギャラリー、高知駅、知事公邸、桁形の織田歯科医院の建物、沢田マンションなど、新たな切り口として建築物を紹介してはどうか。その場合に、単にこんなものがありますよと紹介するだけでなく、せめてどういうところが特徴的なのかといったことをきちんと伝えるパンフレットなどによる解説は必要だと思う。
- ・宿泊施設における非正規人材の確保について、確か三原村の集落活動センターでは、働く人側にとっては年間を通じて働けるよう、それぞれの繁忙期に合わせた2つの仕事を組み合わせ合わせて割り振る仕組みがあった。県として部局横断的に探して、こんな働き方が出来ますよと複数の仕事をセットでいくつかのパターンをお知らせするようなことができないか。また、宿泊施設で一定期間働いてくれた方には宿泊券をプレゼントするなど、給料以外のちょっとしたプレゼントを用意しても良いのではないかと。私が学生の頃は、冬にスキー場で働く仕事以外の時間にスキーができるというような特典があって人気があった。そんなことが動機付けになり、人が集まるのではないかと。思う。
- ・外国人延べ宿泊者数の目標について、R9に17万人泊となっているが、17万人泊となった場合、他の都道府県で言えばどの辺のレベルに追いつくのか教えて欲しい。
- ・ジャパネットたかたもクルーズ船の販売をしているが、ジャパネットたかたは自社で放送設備を持っていてあちこちのチャンネルで1日に何度も放送している。クルーズ船が寄港するところは乗船客にとって魅力的な地域という位置づけで伝わり、宣伝効果は相当高いと見込まれる。ジャパネットたかたが販売するクルーズ船の寄港地に入ることができれば、放送を通じて高知はそのような地域であるという認識を多くの方に持ってもらえるのではないかと。

（高知県観光振興スポーツ部小西部長）

- ・隈研吾さんの建築物については、台湾のスタートラベルのツアーコースにも入っており、多くの方にお越しいただいている。それと合わせて、牧野植物園や坂本龍馬記念館などの建築物に着目した紹介の仕方ができないか研究してみたい。
- ・繁忙期の非正規人材の確保については、東洋町や馬路村など国の特定地域づくり事業協同組合制度を活用した市町村があり、農業などと組み合わせた事例もあるが、そのマッチングが難しいということも聞いている。良い取り組みだとは思っているので、中山間地域対策課と

も連携しながら考えていきたい。来年度は、宿泊施設などで仕事をしながら旅を楽しむという仕組みの中で、高知のプレゼンスを上げていくような取り組みに挑戦しようと考えている。

(国際観光課谷内課長)

- ・外国人延べ宿泊者数の目標については、2024年で高知県は全国で下から5番目という状況であり、四国の中で見ても高知県は少ない状況。まずは高知県の数値を上げていくことが大事だと考えている。
- ・ジャパネットたかたについては、港湾振興課が営業にも行っているが、年間寄港地を一括して押さえるため、なかなか高知の寄港が実現していないところ。

(北古味部会員)

- ・県民体育館について、現在までのアリーナに係る議論を見たところ、社会体育施設ではなく単なる体育施設の一部になっている。通常の体育館の利用だけでなく、もっと稼げる施設になっていかないと収支も合わないのではないかと。MICEや大会を誘致できるようなアリーナについて、どのような構想なのか教えていただきたい。
- ・プロジェクトチームで様々なことを進めていくとのことであるが、観光コンベンション協会の誘致部もある中で、このプロジェクトチームはどのようなイメージをなのか教えてもらいたい。
- ・龍馬学園の留学生は、18か国220名となっている。来年は300名を超す見込みだが、高知で働きたい留学生は多い。その中でも特に観光業（ホテル等）は人気がある。言語についても、通常のコミュニケーションには支障がない。そういった外国人材を、観光人材としていかに引きつけるかが重要であり、観光人材の育成に向けた道しるべがあればありがたい。龍馬学園の4年生の卒業生20名のうち19名が県内での就職に繋がっている。こういった中で、観光業についての情報は、まだ学生に繋がるような仕組みがないため、検討していただきたい。

(高知県観光振興スポーツ部小西部長)

- ・新たな県民体育館については、昨年度のあり方検討会の中で、現在の場所に必要な面積を確保したうえで作ることを決めていたところ。現在は有識者の意見を聞きながら基本計画づくりを進めている。県民がスポーツをする機会を十分に確保した上で、アリーナを作っていくこととしているが、アリーナ単体だけで収支を合わせることは現実的ではないと考えている。全国でもアリーナは建設ラッシュであり、首都圏でも収支が取れているところはなかなかない。高松でも指定管理料を払って運営している。収支を全く見ないわけではないが、行政サービスをきちんと行う中で、新たなプロスポーツやMICEやコンサートによって、できるだけ収益をあげた上で、足りない部分を行政が指定管理料で補うということが基本的な姿だと考える。ただし、収益を向上させることについては、我々としても努力していく必要があるという思いで進めている。
- ・上記のことを踏まえてプロジェクトチームを設置することとしており、まだ決まっては

ないが、ちばさんセンターの大ホールと新県民体育館のアリーナについては集約できるのではないかという議論も進めている。そうすることで、新しい県民体育館でMICEや国際会議が開催するようなことも視野に入れながら取り組んでいきたい。プロジェクトチームの専門的な知見を踏まえて、プロバスケットチームの誘致等について検討をしていきたい。また、バレーボールについても、トップリーグのプレーを県内の学生が近くで見れるような機会を確保していきたい。

(観光政策課中村課長)

- ・龍馬学園とは令和5年に留学生とのマッチングの話をいただき、アルバイトなどを通して高知市の宿泊施設で働いていただき感謝している。我々としても観光業に興味のある学生を増やしていきたいと考えており、今取り組んでいることとしては、大学を訪問し、大学の学生に対する出前講座のような取り組みを行っている。実施内容については、学校側と相談の上でカスタマイズしている。龍馬学園の希望を聞いた上で、観光関連事業者との間に入って調整させていただく。例えば、今年度県立大学で実施したものでは、旅館ホテルの若手従業員のほか、広域観光組織、SATOUMIの職員、観光政策課の職員で、観光業の魅力について幅広くPRをした。そのような形で連携させていただければと思う。

(町田部会員)

- ・分散型ホテルに関して、宿を中心とした魅力的な場所が増えていくのは素晴らしいが、宿が増えることに伴い、食事をする場所も必要となる。地元の食堂を活用するだけでなく、その場所にあったら良いと思われるレストランの情報を共有しながら進めることができれば、もっと素敵なエリアになると思う。
- ・以前は外国人観光客にアンケートを実施し、ニーズや課題を把握していたと思うが、そのようなアンケートは今は行っていないのか。コロナ禍を経て外国人観光客のニーズが変わっている可能性もあり、アンケートで得た情報を飲食店等に共有すれば、全体としてレベルを上げていけるのではないか。
- ・高知県の有名な塩職人を視察させてもらいたいと、海外から直接依頼されることがある。今月は3カ国案内しているが、以前はロサンゼルスから来て、海外の3つ星シェフに伝えたいという話もあった。塩職人だけでなく、野菜など様々な職人が高知にいる。そのような人たちをコンテンツにするのも良いのではないか。

(地域観光課仙頭課長)

- ・分散型ホテルは、周辺の観光資源を組み合わせることで長期滞在を進めていくことを念頭に、事業計画づくりの支援をしている。事業計画の策定に当たっては、空き家を宿として改修するだけでなく、周辺の観光資源のポテンシャルを加味した事業計画としている。例えば、土佐清水市の窪津では、3棟の空き家を改修して宿を運営している。現状では集落の中に飲食店はない状況であるが、今後規模を拡大する中で、地元の人が集う居酒屋のようなものを含めたまちづくりをしていきたいという計画で進めている。また、池川では、地域の

食を活かした長期滞在のプランを作っている。引き続き、そうした観点で取り組みを進めていきたい。

(国際観光課谷内課長)

- ・外国人観光客に向けたアンケートについては、タイガーエア利用者、クルーズ船の乗客、その他高知県内を旅行している外国人の3種類実施している。どのアンケートでも、クレジットカードが使える店が少ないという意見、多言語表示が少ないという意見、目的地までの行き方がわからないという意見が多い。観光コンベンション協会とも連携し、インバウンド推進協議会を立ち上げており、その中には飲食店も多く含まれている。そこで、アンケートの情報やセミナーの案内等を行っている。今年度からは、Google Mapに自分の店舗を登録することについても投げかけている。

(高知県観光振興スポーツ部小西部長)

- ・町田部会員の言うとおり、高知には食に関するエキスパートがたくさんいる。そういった人たちと情報交換も行いながら、発信も強めていきたい。

(樋口部会員)

- ・新県民体育館の整備には大いに期待している。
- ・本日の資料（インバウンド誘客の推進）にはクルーズ船に係る記載がないが、なぜ書かれていないのか。クルーズ船の乗客は、宿泊はないとしても、観光消費額などで大きなインパクトがある。寄港の日はバスも足りないほどの状況なので、記載しても良いのではないか。また、外国人観光客が商店街で買い物をすることをどのように促進していくのかというようなことも記載してはどうか。
- ・クルーズ客船は全て高知新港に寄港していると思うが、内港の方にも寄港するようにすれば、交通の便も良くなるのではないか。大きな船は入れないと思うが、小規模の船だけでも内港に寄港するようであれば、例えば、よさこい祭りの時期でバスが足りないような時でも、より多くのお客さんによさこい祭りを楽しんでもらえるのではないか。
- ・宿泊業の所定内給与額の水準という目標があるが、この根拠となっている統計は何か。

(高知県観光振興スポーツ部小西部長)

- ・県内観光客入込数の算出に当たっては、クルーズ船の乗客も考慮している。クルーズ船の誘致については、港湾振興課とも連携しながら取り組んでいる。来年度は、新規又は拡充する施策がなかったため、資料には掲載していないが、クルーズ客については重要視しているので、取り組みを進めていきたい。
- ・内港の活用については、以前来ていた「さんふらわあ」程度のサイズでないと寄港できない。国内の客船では、「さんふらわあ」程度のサイズの客船が少なくなっていると聞いており、内港があまり利用されていない。内港の利用については、港湾振興課ともう一度研究をしてみたい。
- ・宿泊業の所定内給与額の水準については、厚生労働省の賃金構造基本統計調査に基づくものである。

(新開部会員)

- ・冬の食キャンペーンについては、興味深い取り組みだと感じている。また、夜間イベントについては、宿泊に繋がるような取り組みを実施するということなので、我々の旅行業協会や旅館ホテル同業組合とも一体となって商品展開をしていければと思うのでよろしくお願ひしたい。

(高知県観光振興スポーツ部小西部長)

- ・閑散期対策のうち、平日にいかに宿泊客を増やすかということが重要な課題だと考えている。この部分については、県と業界の皆様が一体となってチャレンジをしていくべき分野だと考えている。本日の話にあった食の職人という分野でも、どのような発信ができるのか、どっぴり高知旅キャンペーンの中で取り組みを進めていきたい。